

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり

～「協働的な学び」の充実を通して～

(1年次／3年計画)



自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり

～「協働的な学び」の充実を通して～（1年次／3年計画）

主題設定の理由

①本校の現状



障害の多様化

在籍する児童生徒の増加

「地域学習」のねらいの再確認

②昨年度までの研究の成果と課題

昨年度研究テーマ

「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善」

○教育的ニーズに応じた授業づくり

●成果を継続していくシステム

●学部間および社会とのつながりの検討

③学習指導要領

急激に社会が変化の中で育むべき資質・能力とは…

「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手になることができるようにすることが求められている」

資質・能力の育成のためには…

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

仮説

多様な他者との関わりの中で、よりよい考えを生み出したり、よりよい自分の在り方を考えたりする姿



キャリア教育の視点に立った系統的で発展的な
学びの積み重ね

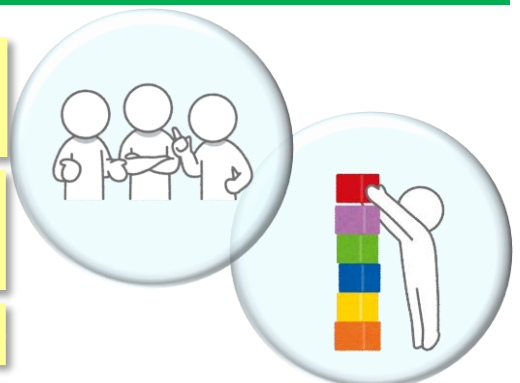
地域を含めた学校内外の資源を活用した
協働的な学びの充実

内容と方法（1年次）

①資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と児童生徒の姿を通じた評価・改善

②キャリア教育で育成したい資質・能力の視点から学年間・学部間の指導内容のつながりの確認

③協働的な学びの充実に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善



「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する児童の育成

～日常生活の指導における個別最適な学びと協働的な学びの視点から～

これまでの研究から

一人一人が生き生きと活動できるように
○リーダー的な児童と関わり、一緒に活動する。



○児童一人一人のねらいに応じた学習内容と
友達と関わりながら学ぶ場面をバランスよく
授業の中に取り入れる。

一人一人の学びが豊かになった

児童の実態

小学部の児童の実態が多様化している。

【コミュニケーション】

○友達のまねをしたり、気に掛けたりする様子
が見られる。

▲教師との関わりが主である。

【基本的生活習慣】

○毎日の繰り返しの活動で見通しをもつと、
一人で活動したり、自分の役割を果たそうとし
たりする様子も見られる。

▲教師の部分的な言葉掛けと支援を要する。

目指す姿

「自分で」・・・・・・・・・・自分のことを最後までやる姿

「自分たちで」・・・・・・・・・・児童同士で協力したり、助け合ったりしながら活動を進めていく姿

「誰かのために役立つ経験」・・・人の役に立つ喜びややりがいのある役割に意欲的に取り組む姿

➡このような姿を目指して指導を積み重ねることが、児童の達成感につながり、活動への意欲が増す。そして、自分から学び続ける姿につながる。

研究の取組と実際

小学部重点項目キャリア教育の充実を目指して

コミュニケーションの
定着・習慣化

基本的生活習慣の
定着

誰かのために
役立つ経験

個々の実態や課題に適した活動と支援 → 個別最適な学び
教師や友達との関わりの中で学ぶ → 協働的な学び

自分で

自分たちで

誰かのために

自分のことは自分
で最後までやる

児童同士で協力した
り助け合ったりする

人の役に立つ喜びや
やりがいのある役割

小学部児童の目指す姿から

以下の方法で
研究を進める

1 ねらいと活動・支援の検討
朝の活動の授業実践

2 授業者実践研修会
学部授業研究会

3 授業改善

研究会で話題になったことを取り
入れる。

1 「目指す姿と学習内容の一覧」の作成と「朝の活動のねらいと活動・支援」の検討とシートの作成
「日常生活の指導（朝の活動）」の授業実践

学年ごとの確認

学級ごとの作成

目指す姿と
学ぶ内容が
明確になった。



3つのポイントで個別の活動を整理する

- ① コミュニケーションの定着・習慣化の徹底
- ② 基本的な生活習慣の定着
- ③ 誰かのために役立つ経験

ねらいや学
習活動、支援
の仕方が明
確になった

感謝される喜び
の経験が大切

2 「日常生活の指導（朝の活動）」の
授業者実践研修会・学部授業研究会の実施

学年によって「自分で」「自分たちで」の
期待する姿に違いがあることが分かった。

3 研究会で話題になったことを
取り入れての授業改善

学年で身に付けたい課題や次に目
指す課題が明確になった。

まとめ

日常生活の指導（朝の活動）の指導で共通理解された支援

「自分で」

個別最適化の視点から

- ・個々のねらいに応じた課題の準備と適切な支援の設定
- ・ねらいを達成したかどうかの見極めと課題のステップアップのタイミングの見極め
- ・カードやICT機器等、児童の実態に応じた教材の準備

「自分たちで」

協働的な学びの視点から

- ・朝の会での座席を工夫する、係活動をペアにする等、友達と関わる機会の設定
- ・教師の支援を少なくし、児童同士が教え合ったり、最後まで自分の力で取り組もうとしたりする場面の増加

「誰かのために」

キャリア教育の視点から

- ・教師からの感謝の気持ち
- ・「誰かのために」が意識できるような係活動の設定

児童の変容

- ・友達が行っていた係活動の様子を見て覚え、自分が係になったときに一人でスムーズに行った。
- ・教師の指示待ちだった児童が、教師の代わりに友達に教える等、友達とやり取りをしながら朝の会を進めるようになった。
- ・友達に無関心に見えた児童が、友達と一緒に活動し、友達を待ったり、「行くよ」と声を掛けたりしていた。
- ・モップ掛けの活動で、児童同士が合図を出し、友達とペースを合わせて取り組んだ。

次年度に向けて

- ・生活単元学習等様々な学習場面でも「自分で」「自分たちで」を意識して教材と環境を整える。
- ・児童一人一人の学びの質を高め、学級の教師や友達だけではなく、学年・他学年教師や友達との関わりを広げるような学習内容の計画と支援の設定を行う。
- ・「誰かのために」役立つとする意識が「学級の友達」だけでなく、「学年の友達のために」「小学部の友達のために」「家族のために」と対象が広がり活動しようとする意欲につながるよう指導する。

これまでの研究から

【成果】

学んだことを活用・発揮しようとする生徒の姿
進路学習内容表の作成
学部全体で授業づくりを共有

【課題】

進路学習内容表の活用
進路学習の適切な授業時数の検討

生徒の実態

ねらいに応じて様々なグループを編成できる
実態の幅が大きい集団
個別の支援を多く必要とする生徒
否定的な自己理解や学習意欲が高まらない生徒



目指す姿

人や物との関わりから「これをやってみたいな」「〇〇してみたらどうだろう？」など
自ら取り組んだり、気づきやよりよい考えを生み出したりする姿

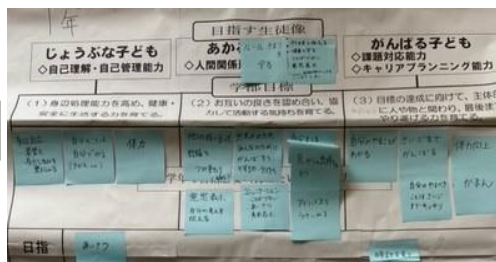
研究の取組と実際

資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と生徒の姿を通じた評価・改善

学習内容や時期を整理・検討

進路学習と各教科等との関連

評価場面の設定（8月・1月）



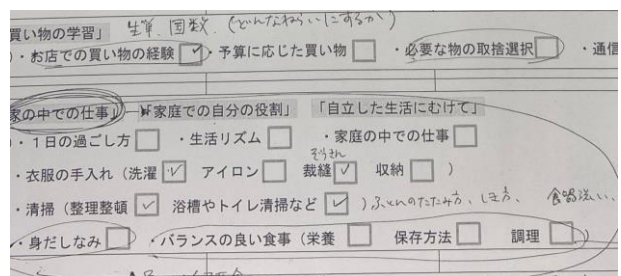
目指す姿、必要な学習内容などが明確になった。評価を有効活用できた。



進路学習内容表を活用した指導計画の作成・評価

職業・家庭科の教育課程への位置付けに向けた学習内容、必要な時数の検討

進路学習内容表で、「既習」「次年度継続」などをチェック（9月、1月）



3年間を見通した学習内容を検討できた。

生徒の実態に応じた学習内容や学び方を共有できた。



協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善（学部授業研究会より）

中学部3年Aグループ 単元名「働くことを考えよう～自分に向いている仕事～」

事前授業検討

学習の流れのパターン化、グルーピングの工夫



授業シミュレーション

ねらいに沿って付箋に意見を書くための手立て

授業提示・授業協議

<主な学習活動>

「人と関わる仕事」に必要な力を考えて、グループで意見を発表し合う
<協働的な学びの工夫>

既習事項の生かし方、気づきや考えの変化を実感できる教材やまとめ

中学部1年Aグループ 単元名「自分でできる家の仕事発見！～やってみよう！家庭の仕事」

事前授業検討

生徒の活動の精選、学び合うための仕掛け



授業シミュレーション

教材の適切な形態や使用方法、教師の役割分担

授業提示・授業協議

<主な学習活動>

洗濯物のよりよい収納の仕方について、友達と意見を発表し合う
<協働的な学びの工夫>

教材を活用した思考の整理、第三者からの評価やアドバイス

まとめ

協働的な学びの充実に向けて

自分の考えを整理したり、伝えたりする手立ての工夫

- ・ボードや付箋を使って自分の考えを書く時間の設定
- ・手元で操作できる教材の活用

人との関わりから、気づきやよりよい考えを生み出すための工夫

- ・学習の流れのパターン化や、発展的な繰り返し
- ・既習事項を活用した学習活動の積み重ね

自ら学習活動に臨むための手立ての工夫

- ・個で考える→グループで話し合う→発表の流れ
- ・ゲストティーチャーなど第三者の活用

生徒の変容

自分の考えを整理したり、友達に伝えたりする姿

人との関わりから、気づきやよりよい考えを生み出す姿

他のグループに注目したり、自ら学習活動に臨んだりする姿



次年度に向けて

職業・家庭の教育課程への位置付けに向けて

進路学習内容表を活用した3年間を見通した指導計画の作成と授業時数を確保する。今年度のうちに、次年度のおおよその学習内容や時期、学習グループなどについて検討を進めていく。

協働的な学びを生徒が実感できる授業づくり

人や物との関わりを通して気付いたことや、自分の考えや行動がどのように変化したのか（しなかったのか）生徒自身が分かるような授業のまとめの仕方や教材などを工夫する。

よりよい自分を目指して、自ら行動する生徒を育成する授業づくり

～「協働的な学び」に重点を置いて～

これまでの研究から

学びや経験を生かして考え、行動できるように…

「分かる」「考える」「生かす」
に焦点を当てた授業づくり

教科等横断的な視点
での授業づくりや生徒
対応



やってみる → うまくできた方法
を考える／気付く



自信をもって
自ら行動する

- 学びや経験を他の学習や生活に生かす姿
- ▲ 学習に向かうことが困難な生徒を考慮した授業

生徒の実態

積み重ねてきた経験や学習内容、環境が様々であることから…

- ▲ 生徒間で学習に向かう習慣、見方や考え方に幅がある
- ▲ 受動的で、挑戦することや自己を表現することに消極的な生徒が多い

一方…
慣れた関係の中で、

- 主体的に友達の活動を助けようとする姿

が育ってきている。



目指す姿

他者と協働して活動し、様々な見方や考え方、表現に触れることを通して…

- ・ 自己の進路実現につながる「よりよい自分」を見付ける姿
- ・ よりよい自分、よりよい生活のために、学びや経験を生かして考えたり主体的に行動したりする姿

研究の取組と実際

学年・各グループ同士で

「育成を目指す資質・能力」と学習内容の検討

表1 学期の評価と次期の目標についての話し合い (例 高1抜粋)

学部目標	学年で目指す資質・能力	2学期の評価と3学期の重点
力	健康に生活する力と最後まで根気強くやり続ける力を培い、働く体	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢について、朝や帰りの会、学年全体での始業時に繰り返し指導したことで、自分で意識し直すようになった。 視覚的支援により、自分からスムーズに活動した。 体トレで積極的に運動する姿が増えた。 登校後の流れを統一したり、個別の場所を確保したりすることで、落ち着いて過ごせることが増えた。 △体力向上の必要性を理解していても、実践が難しい。△情緒が不安定なときに、周りへの影響を考え踏ん張る力がほしい。
互	自己特定感を高める。自己理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 筋力増進ではなく、働くために必然となる「粘り強さ」「食事」を意識した「体力」に関する目標設定や実践を行う。 心の乱れにどう対処すべきかを自覚し行動をおこしてほしい。(対応の経験、言語化に係る時間の確保など) 活動のゴールに向けて、自分のやるべきことに最後まで責任をもって取り組む姿が見られるようになった。 月ごとに個人目標を振り返り、友達からも評価や助言をもらえる言葉が増えた。

「学年で育てたい資質・能力」を具体的な生徒の姿として確認⇒学期ごとの評価と次期の重点に活用できた。



学年間・学部間のつながりを視点にした話し合い

学習内容や時期を整理・検討

各教科等との関連を検討



学校行事や中心単元を軸にした各教科等の単元間のつながりを視点に整理できた。学習の進捗に応じて、学習の継続や見直しを図った。

学年間・学部間の連携の効果と具体策が挙げられた。

協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善（学部授業研究会より）

普通科1年Dグループ（一般就労希望） 単元名「働く人から学ぼう①」



事前授業検討

- ・題材で目指す生徒の姿の明確化→題材の目的や本時のねらい、学習内容を精選
- ・将来と今とをつなぐ学習の工夫（卒業生とのつながり、楽しく働くモデル）
- ・協働的な学びの場の工夫（思考の深化を狙った活動の組立て）

授業提示



<主な学習活動>

- ・働くことについて身近な大人にインタビューしたことを、4つのカテゴリーに分けて記して「働くモデル図」を作成し、共有する。

<協働的な学びの工夫>

- ・2～3人で固定した小グループでの活動→安心して話し合う経験の積み重ね
- ・同じ質問に対する様々な考えを知り、自分が関心をもった意見を抽出する活動→他者の考えを自分と関連付けて考える姿に

授業協議／指導助言

<協議>①対象生徒の見取り→②「協働的な学び」につながる授業づくり

- ・活動の流れのパターン化、協働的・対話的なグループ活動→主体的な姿に
- ・グループ内の役割分担／授業で扱う言葉の精選／思考の観点を絞るための発問や選択肢の提示に関する改善案

まとめ

協働的な学びの充実に向けた指導で共通理解された支援 ○成果／▲課題・改善

活動グループの工夫

○生徒主体の意見交換や役割が円滑に遂行するようなペアリングやグループ編成

ICTの活用

○動画等を用いた客観的な自己及び他者評価の設定

個別の学びと集団での学びをつなぐ視点

○集団の目標を教科等横断的に一貫して設定する。

○個々の役割を協働的な活動へ広げる工夫

▲生徒同士の関わりの場を増やし生徒同士の相互理解を広げるための、意図的な役割や活動の設定

▲自己理解、自分の頑張りどころを知る学習の積み重ねが残る活動の設定

生徒の変容

友達の実態や心情を考慮した発言、行動が増えた。



他者と経験を共有して意見交換したことで、自分の考えの意味付けや自己理解ができた。

今必要とされる資質・能力を意識し、目的的に学習に臨んだり、団結して自主練習をしたりした。

次年度に向けて

目指す資質・能力を基に「協働的な学び」を視点にした授業づくり

学年ごとの育成を目指す資質・能力を基に「協働的な学び」を視点にした授業づくりを検討

教師：「協働的な学び」を視点にした授業づくりの意識が高まった。
生徒：生徒同士が影響し合い、自分から学ぼうとする姿が増えた。

「協働的な学び」にポイントを置いた授業づくりの実践と改善の検討を充実させ、目指す資質・能力の育成のための成果を積み上げる取組が必要である。

授業づくりの充実に向けた効率的に話し合う研究体制の構築

学部の実情に合わせた研究の進め方や授業検討会のもち方を整備し、授業づくりや教師の指導・支援についての実践的で建設的な話し合いの機会を充実させたい。

学びをよりよい思考、行動に生かす生徒の育成を目指した授業づくり

～専門教科「流通・サービス」での取組を通して～

これまでの研究から

【成果】

- ・ 系統性・発展性のある「職業科」計画の立案
- ・ 生徒のねらいの達成状況や進路希望に応じた専門3教科の時期や内容の見直し

【課題】

- ・ 各教科同士を関連付けて、年度途中で見直し、改善をする必要性
- ・ 「学び」を自信につなげ、活用する場の設定

生徒の実態

- ・ 全員一般就労を目指している。
- ・ 自分の意見を伝えたり、他者の意見を受け入れたりすることが苦手
- ・ 経験不足
- ・ 学びの定着が課題
- ・ 学習して覚えたことに自信をもてない



目指す姿

様々なグループ活動で他者と関わり、教え合い、学び合うことにより知識や技能の定着が図られ、考えが深まり、

- ・ 学習や活動への目的意識を高めたり、新たな目標設定につなげたりする姿
- ・ 相手の気持ちを考えて分かりやすく工夫して伝えたり、聞いたりする姿

研究の取組と実際

学年ごとに「育成を目指す資質・能力」の作成

育てたい力の明確化

教科ごとの学習内容検討

学習活動や手立てを評価・改善

資質・能力を学期ごとに評価することで、成果や新たな取組の必要性や手立ての再考の機会になった。



「年間指導計画表」作成

学年で 学科で 他教科と	1年	■ 流通・サービスに関する仕事 ・ 「流通」「サービス」の意味 ・ 「流通」に関する仕事 ・ 「サービス」に関する仕事 ・ 挨拶の励行とSS環境 ・ ラジオ体操 ■ タオルの使い方 ・ タオルのたたみ方 ・ タオルの絞り方 ・ 机の拭き方 ・ タオル検定	■ ダストクロスを使った床面清掃 ・ 用具の名称と機能 ・ 用具の取り扱い方と留意点 ・ ダストクロスの使い方と片付け方 ・ ほうき、ちりとりなどの使い方と片付け方 ・ 床面の除塵方法 ・ ダストクロス検定
	2年	■ 洗剤の取り扱い方 ・ 清掃用洗剤の種類と性能 ・ 清掃箇所に応じた洗剤の使い分けと用途 ・ 清掃用洗剤取り扱い上の注意点	■ 技能競技大会に向けて ・ 競技課題と注意事項 ・ 使用する仮教材 ・ 隣性床清掃及び机上清掃の作業工程 ・ 各工程における作業方法と作業手順 週に1回(6週年) ■ 校内清掃実習～校内定期清掃～ ・ 校内清掃の目的

昨年度の反省を基に見直された学習内容を、今年度のものに反映、年間指導計画の立案の参考になった。



「協働的な学びの実現に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善（学部授業研究会より）」

1・2年流通・サービス科 3年流通・サービスA科 題材名「中高食堂清掃」

事前授業検討

<検討したこと>

- ・ 言語力向上や言葉遣いを意識したコミュニケーション力の向上を目指した、生徒同士をつなぐ教師の言葉掛け
- ・ 生徒の課題を意識した役割分担

授業提示



<主な学習活動>

中高食堂清掃

<協働的な学びの工夫>

- ・ 1～3年生の縦割りのグループを設定
- ・ 清掃終了後、生徒同士が成果と課題、次回に向けての改善点を話し合う改善会議の時間を設定
- ・ 教師は生徒同士をつなぐ発言をする。

授業協議

<協議>

- ・ 資機材の使い方について基本の徹底と課題把握、段階的な目標設定
- ・ ICTを活用した客観的な評価場面の設定

まとめ

協働的な学びの充実に向けて

学んだ知識や技術を活用するために

個人の学び

学んだ知識や技術を集団の中で活用するため
単元計画の立案、学習活動の工夫
定期的な評価



多様な人と、多様な場での学び

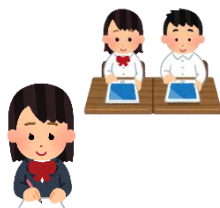
目標に沿って自分の活動を振り返るために

実態に応じた話し合いの方法

ICTの活用

話し合い

個々の意見をまとめるノート



生徒の変容

基本的な資機材の使い方が分かった。

先輩のやり方を手本に動いてみよう。

多様な人と
外部講師
他学年



多様な場で
外部清掃
改善会議

どうすればうまく伝えられるだろう。

できたことと課題が分かった。次の目標にしよう。

次年度に向けて

今年度の成果の他教科への広がり

個に応じた方法で学びを深める場の設定と他者との関わりの中で学びをより深める場の設定を他の教科にも活用したい。

「育てたい資質・能力」の学科全員での共有

生徒の将来をイメージして生徒一人一人の目標や課題を学科職員で共有する。

各教科の授業を通して生徒にどんな資質・能力を育てていくかを、より横断的な視点で捉える。

学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践

～生徒同士の学び合いや体験的な活動を通して～

これまでの研究から

個々の実態に応じた生活指導

学習会や指導体制の工夫・改善

知識や技能の向上と習慣化へ

生徒について

様々な学部、学年の生徒が在籍している。
在舎年数によって寄宿舍生活の経験の差がある。

様々な学び合いの場を設定することが可能

目指す姿及び研究の内容と方法

指導内容の焦点化：1年目・洗濯・アイロン掛け

生徒同士の学び合いの場面設定

見る・教わる・模倣する・教える

生活技術の探究・習得
学びの反復・定着

他者を知ることで
自分に合った方法を習得

地域資源の活用を含めた
体験的な活動の場面設定

学習会・交流・地域資源の活用

新たな知識・技能の習得
知識を活用する場の拡充

卒業後を意識した
生活技術の習得

学んだことを自分の力として活用できる生徒

学部・保護者との連携

授業参観・寄宿舍通信
舎監からのメッセージ
個別の生活指導計画

場所や場面が変わっても
身に付けた知識や技能を
発揮する力の習得

取組の実際

生徒同士の学び合いの場面設定

同じ目標をもつ友達同士で技術を見合う・模倣する・教え合う場面



衣類畳み



アイロン掛け

洗濯干し

寄宿舍集会で、衣類畳み、洗濯干しをみんなの前で披露



地域資源の活用を含めた体験的な活動の場面設定

地域交流



地元クリーニング店の店主を招いての教室

地域資源の活用



洗剤購入



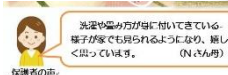
コインランドリーの利用（シューズ洗い）

学部・保護者との連携



生活の様子を見た舎監からのアドバイスやメッセージ

寄宿舍通信



生活の様子・保護者の声を掲載

授業参観・寄宿舍見学



指導方法の共有

まとめ

生徒同士の学び合いの設定

他者のやり方を知り、模倣する中で自分に合った方法を習得

他者に教えることによる学びの反復と定着→教える側のさらなる学びの向上

地域資源の活用を含めた体験的な活動の場面設定

卒業後につながる新たな知識や技能の習得

学部・保護者との連携

舎監からのアドバイスやメッセージ→即時評価、名前を挙げてのメッセージによる生徒のさらなる意欲向上

授業参観による指導方法の共有→場所や場面が変わっても知識や技能を発揮できる環境設定

寄宿舍通信で生徒の頑張りや保護者の声を紹介→保護者との情報共有

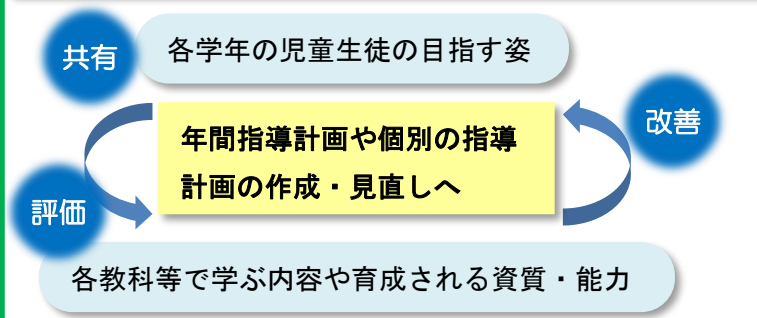


次年度に向けて

- ・ 指導内容の継続と拡充の必要性→今年度有効だった指導内容と体制を基に、指導内容の拡充を図る。
- ・ 体験的な活動で得た知識や技能を全体共有（披露）する場の設定→集会や目的別生活実習の場を増やす。
- ・ 学部との継続的な連携→寄宿舍施設の提供や寄宿舍職員の協力の場を増やす。
- ・ 寄宿舍通信を活用した、生徒の頑張りや保護者の声の発信→回数を増やして継続していく。

研究の実際

①目指す姿の明確化と定期的な評価・改善を行う学年会



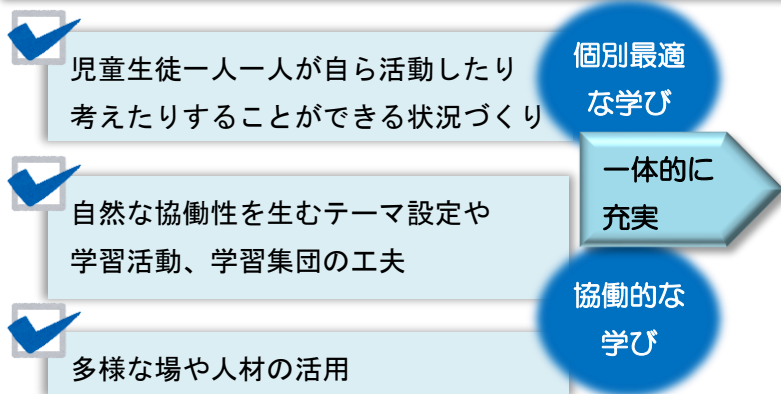
教育課程を支える
マネジメントサイクルの構築

②キャリア教育の視点で学部間のつながりを確認する全校研究会

学部間・学年間の
「目指す姿」のつながり
の明確化

目指す児童生徒像 [○]		
じょうぶな子ども [○]	あかるい子ども [○]	がんばる子ども [○]
学部間で共通する力（縦割りの話し合いで導き出したこと） [○]		
自分のことに自分で取り組む [○] （体の使い方、身辺処理の技能） [○]	自分の気持ちを知る、表す、伝える [○] （快・不快、好き・嫌い、得意・不得意） [○]	自分で選択する [○] （自己選択） [○]
↓ [○]	↓ [○]	↓ [○]
望ましい生活習慣や安全な行動 [○] の理解 [○] （基本的な生活習慣、健康管理、安全な行動） [○]	様々な集団の中での適切な関わり [○] （気持ちのやりとり、挨拶、依頼や相談など） [○]	目的や目標をもって行動する [○] （自己決定） [○]
↓ [○]	↓ [○]	↓ [○]
自分の状態を理解して、自分を [○] 律して行動する気持ちや体力 [○]	お互いを認め合い活動する力 [○]	目的や目標に向かい考えながら [○] 行動する [○] （工夫したり、試行錯誤したり） [○]
		↓ [○]
		最後までやり遂げる力 [○]

③各学部の授業研究会（「協働的な学び」の充実に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善）

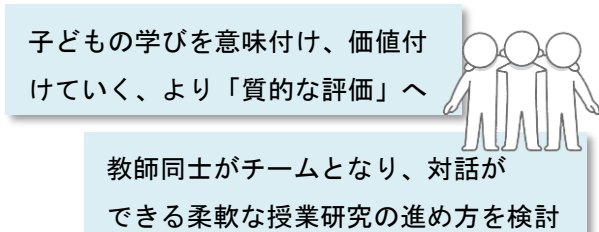
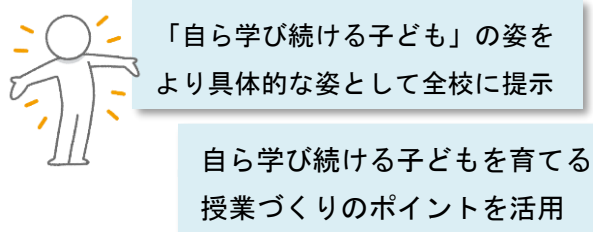


自ら学び続ける子どもを育てる
授業づくりのポイント

次年度に向けて

各学部の授業実践と「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿とのつながり

教師同士が互いに学び合える授業研究及び授業研修の在り方の検討





令和4年度 研究報告

発行年月

令和5年3月発行

発行所

秋田県立栗田支援学校

〒010-1621 秋田市新屋栗田町 10-10

TEL 018-828-1162

018-888-8171 (第2校舎)

018-828-1170 (寄宿舍)

FAX 018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp

